



2022年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2022年2月14日

上場会社名 株式会社フジックス 上場取引所 東
 コード番号 3600 URL https://www.fjx.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)藤井 一郎
 問合せ先責任者 (役職名)常務取締役管理部長 (氏名)松尾 勇治 (TEL) 075(463)8111
 四半期報告書提出予定日 2022年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第3四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第3四半期	4,053	△9.7	△139	—	△106	—	△112	—
2021年3月期第3四半期	4,487	△3.1	125	116.3	167	30.9	154	122.9

(注) 包括利益 2022年3月期第3四半期 86百万円(△64.0%) 2021年3月期第3四半期 241百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第3四半期	△81.90	—
2021年3月期第3四半期	112.20	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第3四半期	10,691	9,371	80.9
2021年3月期	10,707	9,382	81.3

(参考) 自己資本 2022年3月期第3四半期 8,650百万円 2021年3月期 8,706百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	70.00	70.00
2022年3月期	—	0.00	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	62.50	62.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 2021年3月期期末配当金の内訳 普通配当 62円50銭
記念配当 7円50銭

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日~2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,352	△8.2	△180	—	△127	—	△132	—	△96.26

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 ―社(社名)―、除外 ―社(社名)―
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期3Q	1,468,093株	2021年3月期	1,468,093株
② 期末自己株式数	2022年3月期3Q	91,425株	2021年3月期	91,425株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期3Q	1,376,668株	2021年3月期3Q	1,376,705株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 4
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 8
(継続企業の前提に関する注記)	P. 8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 8
(会計方針の変更)	P. 8
(追加情報)	P. 8
(セグメント情報等)	P. 9
(収益認識関係)	P. 9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症のワクチン接種の普及とともに、秋口以降は感染者数も減少し、緊急事態宣言も解除されたことで、回復への期待が高まりましたが、12月以降は新たな変異型ウイルスによる感染再拡大が懸念される状況となり、再び先行きの不透明感が増すこととなりました。

当社グループの関連業界におきましても、国内の衣料品消費はまだら模様ながら回復の兆しが見られましたが、その生産は引き続き慎重で、手芸関連分野でも前年同期の受注増の反動もあり、縫い糸の受注は国内外ともに低調のまま推移しました。

これらにより当第3四半期連結累計期間の売上高は、為替換算レート変動による増収要因があったにもかかわらず、4,053百万円（前年同期比9.7%減）となりました。

一方、利益面につきましては、前期には当社新社屋に関連する一過性の費用があったことや、当期の受注減少や営業活動制約等に伴い、販管費は前年同期と比較して低水準にあるものの、当社の売上高および生産高の減少とアジアセグメントにおける減益が響いて、営業損失は139百万円（前年同期は125百万円の利益）、経常損失は106百万円（前年同期は167百万円の利益）、親会社株主に帰属する四半期純損失は112百万円（前年同期は154百万円の利益）となりました。

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントごとの経営成績は次のとおりです。

日本

当社グループにおきましては、当第3四半期連結累計期間は、当社の2021年4月から12月まで、国内子会社の2021年2月から10月までの業績が連結されております。

カーシート向けなど、自動車関連分野におきましては、受注の回復傾向が続きましたが、衣料品の生産は先行きの不透明感から引き続き慎重で回復はまだら模様となり衣料用縫い糸の受注は低調が続きました。

加えて、前年同期には巣ごもり需要によるかつて経験のない受注増加の見られた家庭用縫い糸も、当期はその反動もあって受注が落ち込んだままで、これらの結果、当セグメントの売上高は、3,209百万円（前年同期比13.6%減）となりました。

また、利益面につきましては、前期には当社新社屋に関連する一過性の費用もあったことや、当期の受注減少や営業活動制約等に伴い、販管費は前年同期と比較して低水準にあるものの、当社の売上高および生産高の減少が響いて、セグメント損失は133百万円（前年同期は91百万円の利益）となりました。

アジア

当セグメントに属する全ての海外子会社は、事業年度の末日を12月末日と定めており、当第3四半期連結累計期間は、2021年1月から9月までの業績が連結されております。

また、それぞれの子会社ごとに新型コロナウイルスの感染状況や事業活動への影響、衣料品の仕向け地なども異なるため、業績はまちまちですが、日本向け衣料品の生産は回復もまだら模様で、当セグメントの主力である日本向け衣料品用縫い糸の受注は一部を除いて回復が鈍いまま推移しました。

しかしながら、当セグメントの売上高は、為替換算レートの変動による増収要因があったため、843百万円（前年同期比9.2%増）となりました。

一方、利益面は、中国の生産子会社における製造費用および販管費の増加が響いてセグメント損失は9百万円（前年同期は30百万円の利益）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて16百万円減少し、10,691百万円となりました。主な増減は、棚卸資産の増加66百万円があったものの、受取手形、売掛金及び契約資産の減少75百万円などがありました。

負債は、前連結会計年度末に比べて5百万円減少し、1,319百万円となりました。主な増減は、買掛金の増加70百万円があったものの、未払法人税等の減少33百万円、賞与引当金の減少28百万円、その他(固定負債)の減少15百万円などがありました。

純資産は、前連結会計年度末に比べて10百万円減少し、9,371百万円となりました。主な増減は、為替換算調整勘定の増加185百万円があったものの、利益剰余金の減少209百万円などがありました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2022年3月期連結業績につきましては、引き続き新型コロナウイルスの感染状況や事業環境の先行きも不透明で見通せないことから、2021年5月14日に公表いたしました「2021年3月期決算短信」における通期の連結業績予想の数値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,657,293	2,678,308
受取手形及び売掛金	1,078,078	—
受取手形、売掛金及び契約資産	—	1,002,566
電子記録債権	247,088	267,819
棚卸資産	2,596,676	2,663,627
その他	47,554	74,882
貸倒引当金	△8,699	△8,757
流動資産合計	6,617,991	6,678,446
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,968,872	1,958,812
その他(純額)	707,390	688,017
有形固定資産合計	2,676,263	2,646,829
無形固定資産		
その他	191,210	196,560
無形固定資産合計	191,210	196,560
投資その他の資産		
投資有価証券	944,072	889,480
その他	286,038	287,936
貸倒引当金	△8,514	△8,211
投資その他の資産合計	1,221,596	1,169,205
固定資産合計	4,089,070	4,012,596
資産合計	10,707,061	10,691,043
負債の部		
流動負債		
買掛金	277,067	347,984
未払法人税等	44,152	11,095
賞与引当金	53,103	24,941
資産除去債務	385	—
その他	198,670	189,621
流動負債合計	573,378	573,643
固定負債		
役員退職慰労引当金	198,568	214,496
退職給付に係る負債	58,624	51,798
資産除去債務	32,788	32,788
その他	461,694	446,567
固定負債合計	751,675	745,650
負債合計	1,325,054	1,319,294

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2021年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	923,325	923,325
資本剰余金	771,087	771,087
利益剰余金	6,576,104	6,366,687
自己株式	△109,313	△109,313
株主資本合計	8,161,203	7,951,786
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	307,845	271,289
為替換算調整勘定	246,957	432,816
退職給付に係る調整累計額	△9,352	△5,837
その他の包括利益累計額合計	545,450	698,268
非支配株主持分	675,353	721,693
純資産合計	9,382,007	9,371,748
負債純資産合計	10,707,061	10,691,043

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)
売上高	4,487,728	4,053,261
売上原価	3,124,433	3,032,206
売上総利益	1,363,295	1,021,055
販売費及び一般管理費	1,237,423	1,160,789
営業利益又は営業損失(△)	125,872	△139,734
営業外収益		
受取利息	4,809	6,136
受取配当金	27,544	28,327
賃貸料収入	16,591	18,244
その他	21,538	14,672
営業外収益合計	70,483	67,381
営業外費用		
支払利息	170	53
賃貸料収入原価	7,512	8,041
為替差損	11,801	14,519
その他	9,359	11,670
営業外費用合計	28,844	34,285
経常利益又は経常損失(△)	167,510	△106,638
特別利益		
固定資産売却益	1,522	—
特別利益合計	1,522	—
特別損失		
固定資産売却損	622	—
固定資産除却損	432	82
特別損失合計	1,054	82
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	167,979	△106,721
法人税、住民税及び事業税	60,452	19,892
法人税等調整額	△49,221	△4,938
法人税等合計	11,231	14,953
四半期純利益又は四半期純損失(△)	156,747	△121,674
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	2,281	△8,928
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	154,466	△112,745

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	156,747	△121,674
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	89,220	△36,556
為替換算調整勘定	△29,033	241,582
退職給付に係る調整額	24,473	3,515
その他の包括利益合計	84,660	208,541
四半期包括利益	241,408	86,867
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	245,292	40,071
非支配株主に係る四半期包括利益	△3,883	46,795

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前題に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、海外子会社の収益認識について、従来は出荷時に収益を認識しておりましたが、着荷時に収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。また、収益認識会計基準第86項また書き(1)に定める方法を適用し、第1四半期連結会計期間の期首より前までに行われた契約変更について、すべての契約変更を反映した後の契約条件に基づき会計処理を行い、その累積的影響額を第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減しております。

収益認識会計基準等の適用による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」に表示していた「受取手形及び売掛金」は、第1四半期連結会計期間より「受取手形、売掛金及び契約資産」に含めて表示することといたしました。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第3四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響に関する会計上の見積り)

会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響につきましては、前連結会計年度の有価証券報告書において注記した仮定に対して、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,714,784	772,944	4,487,728	—	4,487,728
セグメント間の内部 売上高又は振替高	145,819	436,726	582,546	△582,546	—
計	3,860,603	1,209,671	5,070,275	△582,546	4,487,728
セグメント利益	91,669	30,280	121,949	3,922	125,872

(注) 1. セグメント利益の調整額3,922千円は、セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	計		
売上高					
顧客との契約から生じる収益	3,209,460	843,801	4,053,261	—	4,053,261
外部顧客への売上高	3,209,460	843,801	4,053,261	—	4,053,261
セグメント間の内部売上高 又は振替高	145,603	343,813	489,417	△489,417	—
計	3,355,063	1,187,614	4,542,678	△489,417	4,053,261
セグメント損失(△)	△133,454	△9,628	△143,082	3,348	△139,734

(注) 1. セグメント損失の調整額3,348千円は、セグメント間取引消去によるものです。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、セグメント利益又は損失の算定方法を同様に變更しております。

当該変更が、報告セグメントの売上高及びセグメント損失に与える影響は軽微であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記情報(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。